

## ⑤ 一本杉古墳

名取が丘のある丘陵のほぼ中央に位置する一辺18m、高さ2.8mの規模を誇る方墳です。葺き石や埴輪は見つかっていませんが、墳丘の周りには周溝が見られます。

I-17-⑤-a



I-17-⑤-b



I-17-⑤-c

# 名取の浜堤上に 分布する古墳

I-18

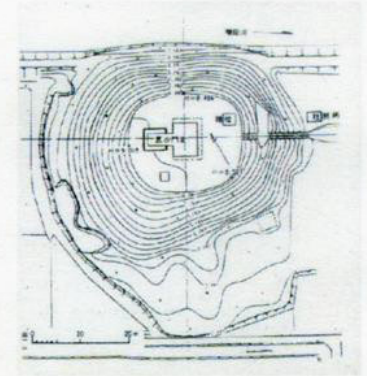
## ① 毘沙門堂古墳

杉ヶ袋(下郷)の浜堤(ひんてい)上で、直径50mの堂々とした円墳の姿を見せているのが、毘沙門堂古墳です。東北地方の中では、最大級の円墳で、この地区の豪族の実力(じつりき)の大きさを示(しめ)しています。また、つられた年代は、墳丘部分から出土した円筒埴輪や朝顔型(あしがらかた)埴輪などから5世紀中頃と考えられています。

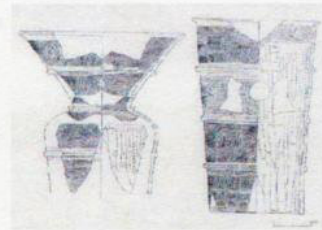
**浜堤とは：**

砂浜の海岸線と平行する位置で、砂などが堆積してできた高まり。水はけの良い土地なので、昔から集落などが営まれていることが多いようです。

I-18-①-a



I-18-①-b



I-18-①-c



I-18-①-d

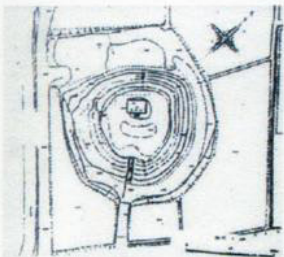
## ② 雷神塚古墳

飯塚(下郷)の浜堤上に築かれた直径30mの規模を誇る円墳です。発掘調査は、行われていませんが、現況(げんじょう)で墳丘のまわりに堀状(ほりじょう)の落ち込みが見られることから、周溝(しゅうこう)をもつ古墳のようです。

**周溝とは：**

古墳の周溝の場合、墳丘のまわりにめぐらした堀状(ほりじょう)のもの。まん中の墳丘に高く土を盛(も)るために、まわりの土を掘った痕(あと)でもあります。

I-18-②-a



I-18-②-b



I-18-②-c